

自動車技術会のVision・Mission・Statement

加速する技術革新にタイムリーに対応し、様々な分野との連携を拡大する新しいステージに踏み出すため、
本会のルーツである「設立趣意書」を尊重しつつ、未来に向けた新しい存在意義を
2021年5月にVision・Mission・Statementの形で新たに発表しました。

Vision

技術者の魂を揺さぶる「場」であり続ける。

Mission

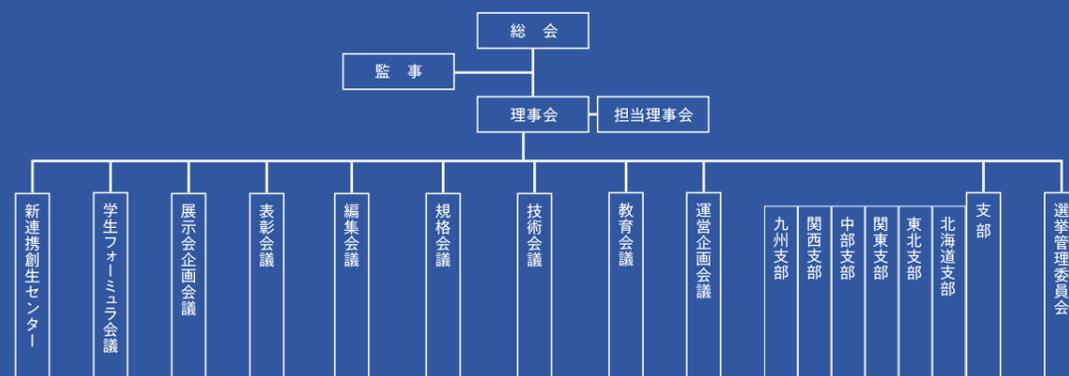
人と知をつなぎ、モビリティの未来を支える。

Statement

私たちは、自動車に関わるすべての人が知を共有し、
技を磨き、未来を熱く議論し合う「場」でありたい。
モビリティ技術は、絶えず進化を求められている。
暮らしを豊かにし、地球環境に負荷をかけない。そんな社会を実現するために。
あらゆる壁を越えた交流・共創・発信・育成を、
私たちは推進していく、スピーディーに、そして力強く。

人と知をつなぎ、
モビリティの未来を支える。

自動車技術会 組織図



公益社団法人 自動車技術会

本部・事務局 / 〒102-0076 東京都千代田区五番町10-2 五番町センタービル5F
TEL: 03-3262-8211 (代) FAX: 03-3261-2204 E-mail: webmaster@jsae.or.jp

<https://www.jsae.or.jp>



公益社団法人 自動車技術会

自動車技術会は1947年2月、「自動車技術と真剣に取り組む一つの強力な団体を結成し、良い車を沢山作り、飛躍的な新形式自動車の創案に全力を奮うべきである」との気概に富んだ技術者たちによって始まりました。

その時に掲げられた「設立趣意書」を原点に、変わりゆく社会情勢の中、自動車および自動車にとどまらない新しい分野の技術に関する活動を応援し続けます。

研究成果を講演発表する場の開催

展示会では、自動車産業に携わる国内外の人と企業が、最先端の技術情報についての交流が図れます。学術講演会では、国内外の研究者・技術者が最新の研究成果を講演しています。シンポジウム、フォーラム、公開委員会で、調査・研究の成果を広く発信しています。

- 春季・秋季大会／学術講演会
- 自動車技術展(展示会)
 - 人とくるまのテクノロジー展
 - “くるまからモビリティへ”の技術展
- シンポジウム
- フォーラム
- 公開委員会
- 専門分野別国際会議
 - SETC
 - P,E&L
 - AVEC
 - EVTeC
 - FAST-zero 他



自動車技術に係る課題や将来技術の調査研究

自動車技術に関わる課題に取り組み、解決に向けて調査・研究を重ね、技術を結集・統合する委員会を組織しています。

- 技術会議
- 新連携創生センター

関連機関・団体との提携・交流

FISITA(国際自動車技術会連盟)は世界39か国の自動車技術会が加盟する国際機関で、180,000名以上の自動車関連の技術者及び研究者を擁する一大ネットワークです。最大のイベントであるFISITA大会には毎回役員を派遣しています。

- 国際会議



自動車関連規格の制定・改正

委員会を組織し、国際規格であるISOの作成及び国家規格のJIS・団体規格のJASOの制定・改正のための審議を行っています。

- ISO
- JIS
- JASO

会員数
45,619名*

自動車技術会の事業



賛助会員数(法人)
807社*

キッズエンジニア

主に小学生向けの、自動車を中心とした様々な分野の科学技術やものづくりに興味を持ってもらう体験型学習イベントです。プログラムは各出展社が子供にもわかりやすく趣向を凝らしており、実際のエンジニアが先生になってくれるものもあります。この体験をきっかけに将来、子供たちが日本を支える技術者になってくれることを期待しています。

モビリティデザインコンテスト

芸術、工学、デザイナーの道に興味がある中・高・高専生を対象に、カーデザイナーの仕事を知ってもらうためのイベントです。テーマに基づいたオリジナルのクルマを描いて応募し、「自分が考えているイメージや機能が絵に表現されているか」「新規性、進歩性、独創性があるか」の観点からデザイン部門委員会による審査を行います。入賞者には、表彰、及びプロのカーデザイナーによるスケッチ講習が行われます。

学生フォーミュラ日本大会

大学・高等専の学生自らがチームを組み、約1年間かけて構想・開発・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーで競技するイベントです。走行性能のみならず、車両のマーケティング、企画・設計・製作、コスト等の総合力を競います。自動車技術及び産業の発展に資する人材を産学官民で支援・育成するとともに、学生にものづくりの厳しさ・おもしろさ・喜びを実感してもらうことを目的としています。

自動運転AIチャレンジ

本大会は、CASE、MaaSと呼ばれる新たな技術領域において、これからの自動車業界を牽引する技術者の発掘育成のための新たな取り組みとして実施しています。コンピューターサイエンス、AI、ソフトウェアや情報処理に関わる技術者・研究者・学生等のチャレンジの場、また学習の機会を提供し、有機的な繋がりを実現する場を目指します。

自動車サイバーセキュリティ講座

自動車業界に携わる、ITに関する知識を有する電子設計部門所属の若手エンジニアが対象の講座です。サイバーセキュリティの重要性、開発プロセス、要素技術の基礎を学べます。サイバーセキュリティに関する国際標準及びプラクティスに準じた要求・設計仕様を作成できる人材の育成を目指しています。

次世代の技術者育成のための活動

未来の技術者を育てるべく、子供たちが自動車関連分野への興味を持ってもらえる催事、自動車関連分野を目指す学生向けの大会、若い技術者を応援する講座等を運営しています。

- キッズエンジニア
- 学生フォーミュラ日本大会
- 自動車工学基礎講座
- 自動車エンジニアレベル認定制度
- 自動運転AIチャレンジ
- モビリティデザインコンテスト
- 学生安全技術デザインコンペティション
- 自動車サイバーセキュリティ講座
- 若手技術者交流会
- 自動車業界ウェルビーイングラボ



優れた研究業績の表彰・奨励

優れた研究業績への表彰、及び当会事業への貢献者への表彰を行っています。中でも「自動車技術会賞」は「自動車工学及び自動車技術の向上発展を奨励すること」を目的に1951年の創設以来、自動車技術分野を代表する賞として非常に高い評価を得ております。



技術者に豊富な情報を届ける出版物の刊行

電子書籍として会誌「自動車技術」を発行し、本会が主催した国際会議・講演会・他団体の学術文献情報を「文献・情報検索システム」上にて提供しています。

- 会誌「自動車技術」
- 文献・情報検索システム
- 自動車技術会論文集
- The International Journal of Automotive Engineering
- 自動車技術ハンドブック



会誌「自動車技術」(電子版で発行)

自動車技術会設立趣意書

未曾有の歴史的な大敗戦を喫してより既に一年有半、全国民は未だに飢餓にふるへ住むに家なき有様である。

産業界とは見ればストック資材の枯渇、燃料難其の他による生産危機に直面しつつあり、終戦後の虚脱から立ち直る最も早かつた自動車産業も悪条件の蓄積によって遂に縮小生産過程への突入を余儀なくさせられ復興輸送達成に大きな支障を来してゐる。此の時一方に於ては新指導者層による産業復興運動が澎湃として湧き起らうとし、他方眼の辺りに飛び交ふジープ、軍用トラック、大型バスの偉力に国民の自動車に対する意識は格段の飛躍を示しつつある。今日自動車は平和愛好の文化国家に於て公的には汽車電車と同じく、私的にはガス、水道、電気、ラジオ同様生活必需品の一つである。

此の現状を考へる時、われわれ自動車技術者の任務は自ら明かである。即ち乏しい資材を充分活用してもつと良い車をもつと沢山作り、今ある車の保全修理に全力を尽くすと共に、将来輸入されるであらう外国車の研究に、更に進んでは飛躍的な新形式自動車の創案に全力を奮ふべきである。

これ迄自動車界には各種の技術団体があつて斯界に夫々貢献して来たが、機運の熟した今、夫等既成団体及其の事業を打つて一丸とし自動車技術に関する限り各方面に互る障害を取払い、互に手を合つて学術を究めると共に日常実問題を解決し合ひ、技術と真剣に取り組む所の一つの強力な団体、即ち一言にして言へば日本に於けるS、A、E(ソサエティ、オブ、オートモーティブ、エンジニア)を急拠結成したいと思ふ。何卒宜しく御支援の程をわれわれ一同懇願して止まない。

昭和二十二年一月

自動車技術会創立世話人

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 荒牧寅雄 | 飯島博 | 今村次郎 | 梅原半一 |
| 小田部巖 | 小野盛次 | 川越庸一 | 川田正秋 |
| 近藤博 | 阪井政夫 | 島治寛 | 鈴木正一 |
| 高尾勲 | 拓殖陽太郎 | 二宮廣意 | 長谷川信治 |
| 肥田一郎 | 平尾収 | 福川秀夫 | 堀越二郎 |
| 藪健一 | 吉城肇 | | |

*2026年1月現在